

## 共生社会化の推進に関する庁内アンケート結果

(実施期間:令和5年9月19日 ~ 令和5年10月2日)



Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

人権擁護 弱者救済
立場・年齢・考え方・状況などが異なる様々な人が、お互いの違いを理解・尊重して協力しながら生活していく社会
全ての個人が互いに個性を尊重し合う社会
多様な個人が互いに違いを尊重しあい、違いは個性の1つとして認め合う社会
違いを認め合う社会
誰もが尊重し支え合い相互に認め合える社会作り
誰一人取り残されず、すべての人が自分らしく生きることができる居場所がある社会
健全者と障害者、高齢者など社会的弱者とが地域でのコミュニケーションや共同活動を通じて、助け合いや情報共有が図れる社会。
皆平等
多様性を尊重するが故、日本らしさが失われるのであまり良いイメージはない。
偏見差別のない、自由を認め、お互いを尊重できる社会
とても大事なことではあるが、一部の関係者だけではどうにもならないこと。実現するためには、社会全体で取り組む必要がある。
偏見や思い込みなどが解消された中で、誰もが対等である社会
年齢・性別・国籍・障害の有無などの属性に関係なく、誰もが自尊心を持ち、自立して生活することが可能な社会
国籍別、性別、障害者や健全者等に関わりなく、ともに手を携え築いていく寛容な社会
障害者と共に生きる社会
多様性、理想と現実、信用と不信、無知
他人をおもんばかり、自分らしく生きること。
国籍や障害有無、宗教等の信条関係なく共に暮らす社会

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

障害者雇用
ユニバーサルデザイン、全員参加
さまざまな人々が、差別等がなく安心して暮らしていける社会
障害者、高齢者、外国人、ジェンダーレス
徒に権利を主張しない社会
多様性を受け入れる社会。老若男女や障害の有無で差別や不利益が生じないような社会。
マジョリティがマイノリティに歩み寄るイメージ
様々な理由から少数派となっている人たちが、生きやすい社会。
全ての人が平等で、共に支え合いながら社会を築いていくというイメージ。
多様性を受け入れる社会
多くの人が暮らしやすい社会
・老若男女(障害や傷病などの有無も関係なく)すべての人が、相互理解及び相互支援し合い、お互いを認め思いやりを持ち、自分らしさを大切に(大切にされ)て幸せに(優しく)生きていける社会。 ・誰もが相互に補え合うことがあたりまえの社会(それぞれの出来ること出来ないことを理解し合い支援、思いやり)。
独身の方や同性愛の方、外国人の方も、偏見で見られないような社会。
思いやりのある心豊かな社会
男女平等
多種多様な人が分け隔てなく暮らしていける社会
障害の有無にかかわらず、誰もが互いに認め合い、助け合いながら、共に生きる社会
多様性を認め合う社会

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

LGBTQ・障害者に対して偏見
誰もが人や動物、環境などに対し思いやりを持って対応する社会
性別・国籍など問わず、ともに生きていく社会
分け隔てのない社会
わからない
県民の中の多様性や個性を尊重し、共に生活していく社会
障害者や高齢者が一人でどこでも出かけられる社会
全ての人が気持ちよく生活できる社会
素晴らしい社会と思われるが、多様性といえば何でも許される、認められるべきという考えに対し、反論できない雰囲気があり、多様性と言えれば何でも許されるという価値観を強制している。このような社会は無責任な社会にならないか心配であり、それは本当に幸せな、素晴らしい社会なのか、不安を感じている。
障害者、老人、多国籍の人が生きていける社会
平等
全ての人がいきいきと暮らせる社会
お互いがお互いを尊重していく社会
何かの犠牲を強くない、自然も科学技術も全てが協調できる社会
誰もが生きやすい社会
共生社会では制度も充実していること
性別、人種等にとらわれず、すべての人が平等であるべき姿で生活ができる社会。
お互いが助け合う、支え合う社会 当たり前のことを当たり前と思わず、自然にありがとうと言える社会 大阪のおばちゃん
多様性の尊重と適切な距離を維持した関係の構築

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

一人ひとりが違うことを前提に、相互に尊重して過ごすことができる社会
不平等、差別、格差
障害の有無や人種、性別、性的指向など様々な面の違いを許容する社会？
全ての人が、それぞれの資質や能力を生かし貢献できる・貢献している社会
協調性への意識が高い社会。
「命(いのち)」生まれる命、老いる命、病に冒される命、死にゆく命、命に差別はない。
性別や国籍、障害の有無に関係なく、お互いを尊重し、支え合う社会
様々な立場の方がお互いの立場を理解・尊重して生活している
平和
老若男女、多国籍の人々みんなが肩の力を抜いて暮らしている
障害のある方やお年寄りが、特段意識しなくても区別されることなく、自然と助け合える社会。
障害者が働きやすい社会(民間会社のバリアフリー等の安全に働きやすい環境作り)
仲良くして行こう
すべての人が障害や国籍等に関係なく活躍できる社会
多文化共生
誰もが生きづらさを感じない社会
多様性
人、地域・環境、様々な産業
子どもから大人まで色々な世代、障害者、高齢者などのカテゴリー(枠)を超え、一緒に支え合っていくような思いやりのある温かい社会をイメージ

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

すべての人々が、お互いの良さを認識し、長所を活かし、短所を補い合いながらより良い社会を作り上げていくようなイメージ。」
障害の有無にかかわらず地域で同等な関係があること
生涯の有無に関係なく、全ての人が効果的に社会に参加出来る仕組み。
違いを認め合い、受け入れながら、自他の幸福を実現する社会
何かと何か(国籍の違う人々など)が互いに存在を認め合って暮らす社会
円
動物や自然への配慮、誰もが生きやすい世界
誰もが幸せに暮らせる社会
インクルーシブ、ジェンダーフリー、SDGsなど、あらゆる他者を尊重して、多様な人々と協働する持続可能な社会。
一人一人の違いを尊重する文化
「多文化共生」と示されるような、国籍や文化の異なる人々が、互いの違いを尊重しながら共に社会生活を送ること。
バリアフリー、パラリンピック
誰もが同格
多様な価値観を排斥せずに尊重しあう。
一人一人が、多様性を認め合う自体が困難であり、さらにそれらが実現、理解された上で、仕組み枠組みを検討し、共生社会を作っていくことはとても道のりが遠く難しい取り組みであると考え
色々な人が居る社会
寄付など善意に頼る脆い社会
男女、障害、国籍、価値観、文化、SDGs、ユニバーサルデザイン
自然、動物との共存

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

障害のある方や高齢者、子供から大人まで皆が支え合いながら自分らしく暮らしていける社会
お互いに助け合いながら生きていく社会
お互いが協力市あって生きる。
お互いを認め合い、ともに助け合う社会
相互扶助
法律に違反しない限り、各人の思想や信条、生き方などについてお互い許容し合い、差別、区別されることがない社会
福祉が充実した社会
性別や国籍等に関わらず、誰もが安心して自己実現できる社会。
お互いに支えあって、助け合って生きていく それぞれができること、得意なことを活かす
多様性
・女性の社会進出、男性の家事・育児 ・あらゆる差別がない状態(性別、学歴、国籍) ・個性の尊重
障害者
互いに支え合う社会づくり
平等
男女平等
男女
そこで生活する全ての人が差別や偏見なく心豊かに生きがいをもって毎日を送れること
バリアフリー
年齢、性別、国籍、出身地などに関わらず、個人が社会的な生活を営むことができる社会。

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

優しさ、ルールを守る
たすけあう社会。
お互いを理解しながら、対等な立場で接することができる。
共に生きる
どのような属性、立場の人であってもその存在が肯定され穏やかに生活できる社会
障害や年齢等で弱い立場にある人や、国籍や宗教の違いなどで習慣や考え方が違う人々が、差別されることなく、弱い立場の人は(過度でなく)正当に守られて、安心・平穩に暮らせる社会
お互いを尊重して(認め合っ)ともに生きる姿
お互いを尊重し、安心して暮らしていける社会
老若男女、障害、信条等にかかわらず、人として尊重し合い、それぞれが生きやすいよう配慮される社会
自然共生推進課のイメージがあって、まず、自然と人間の共生を思いだしてしまいました。その次に、障害者、性の多様性も含まれているとは思っていませんでした。
人種、障害、出生、性別等にとらわれず、老人から子供まで、全ての人が、基本的な人権を尊重された生活を送ることができる社会。
グローバルスタンダードによる誰かの、押しつけであり、我が国歴代政府の人口政策の無策による、本格的移民受け入れのための口実、無尽文化の山梨県では受け入れられそうもない社会
差別(特に思い込みによる)のない社会。
男女同権
性別、人種、国、年齢等を超えて人類が協力して作り上げていく社会
性別人種身体知能など各個人の違いを「個性」としてとらえ、差別することなくどのような人でも支えあい、快適な暮らしができる社会。
性の多様性
一人一人を大切にできる社会
人、自然、すべての生き物が調和のとれた社会、環境

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

平和
ともに生きていることが幸福であると実感できる地域
年齢や性別、職業、人種、国籍等様々に異なる人々が、同じコミュニティで生活している
あらゆる人が共存
お互いに協力し合って生きること。
多様性のある社会
豊かな人とのつながりによって、互いに支え合える社会
人々が共存共生していく上で、相互の価値観や受け入れ思いやる社会
多様性(上記にある文化、価値観のみならず、生物、環境などありとあらゆるもの)を受け入れ、尊重し、生活すること
文化的背景や障がいの有無等に関わらず人々が対等に暮らせる社会
貧困がなく協力し合い豊かな生活ができる社会
多様な人々が生活する社会
障がい者・健常者、LGBTQ、若年者・高齢者、〇〇層等、有史上でつくられた”見えない壁”を取り払い、共にスクラムを組みつつ協力・助け合い、ふれあいつつ不安なく安心して暮らしていける社会。
あらゆる人が分け隔てなく共に生きていく
「固い、政治的・宗教的なメッセージを含んでいるもの」というイメージ
属性に関わらず皆が生きやすい社会
個性を認め、尊重し、助け合う
多文化、性的マイノリティ、障がい者、高齢者等を含む、様々な立場の人が支え合いながら生きていく社会。
戦争や貧困、差別のない平和な社会

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

正直、最初に思ったのはどこかの政党名かな？と思ってしまいました。
差別なく理解し合える社会
目的に向かって前を向くこと
お互いの性的自認や性的指向を理解して、お互いが心身ともに住みやすい社会であること
人間社会における異なる立場やハンディキャップを持つ人々が、それぞれの特性を十分発揮し、快適な状態で共に生活できる社会。
多様性を受け入れ、共に協力しながら生活するイメージ
地球環境に優しい世界
年齢、国籍、性別、障害、LGBTQ、経歴、貧富など、違いがあることをむしろプラスと捉えることができる生産的社会
障害者等が普通に行動・参画できる社会
多様性、持ちつ持たれつの関係
健常者も障害者も共に支え合って生きる社会
その地域の住民として、外国人が日本人と同じように生活している様子
様々な違いをもつ人々が、違いを認めたくえでお互いを認めながら生活できる社会、異なるものを排除しない世界
多様性を受け入れる包摂的社会
年齢や性別、障がいなど、各の違いや隔たりを意識せず自然体で受け入れながら支え合い、認め合う社会のこと。
自然環境
楽しく生活できる魅力あるまち 未来に誇れるまち
性別、障害の有無、国籍、思想信条や信仰の相違などによって差別を受けることなく、互いの違いを尊重しながら、共に協力し、支え合う社会
性別・身体的特徴・国籍・言語にとらわれず、すべての人が安心安全に生活し、自己実現が叶う社会。

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

あたたかい日常
SDGs
男女共生
男女共生
誰もが等しく暮らせる社会
多文化、他人種、性別等の違いだけではなく、価値観の違いを求め合う社会
当然な社会
すべての人が個性を活かして活躍できる社会。
人々が分け隔てなく共に支え合う社会
全ての人がお互いを尊重しあいながら支え合い、一人ひとりが自分らしく生きられる社会
障害者も高齢者も女性も誰でも分け隔てなく生きづらさのない社会
〇〇レス(ジェンダー、ボーダー、エイジ)という言葉。
多様な人々が対等な立場でお互いを尊重すること
『誰もが』お互いを受け入れ、支え合える社会
お互いに、相手の立場や気持ちを思いやって行動している。
多様性を認めあう社会というと聞こえはいいが、マスコミや地方自治体は性的マイノリティの人権保護だけに走っているようにも見える。他県から山梨への移住者に地元住民が厳しい目を向けたら、身体・精神障害者へのケアが薄かったりと課題が多いように思う。多角的な面で「すべての人が安心して暮らせる」社会をイメージしている。
様々な状況の方々が共に助け合って生きていく社会
生きやすい社会
皆が支え合い、協力して、よりよい社会を目指す

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

バリアフリー
健常者と障害者という言葉が無い社会
一人一人の考えや生き方を認められる社会。枠に問われない開放的なイメージ
老若、男女、人種、国籍、思想等で差別の無い社会
様々な人が、分け隔てなく生活できる社会
お互いを思いやり、生きやすい社会
男女、子供から老人、障害者と健常者、それぞれの国が人間の多様性を認め合う社会。
平等、共助
フラットな人間関係
誰もが平等で生きやすい世界。差別や偏見がない社会。
すみません。イメージがわかりません。
健常者も障害者も生きやすい社会
多種多様な人を認め合い、支えたいながら生きていく社会
国籍や男女など隔たりのない社会
誰もが、ともに、お互いを、助け合う社会
外国人労働者、移民、難民
障害、性別、年齢などが多種多様な人が協力して生きていく社会
男性と女性、障害者と健常者、子どもと大人が分け隔てなく活躍できる社会
障害者、ジェンダー

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

性別や年齢、国籍に関係なく、一人ひとりが互いの違いを理解し尊重し合う意識を持つ社会
すべての人が尊重しあう社会
高齢者障害者外国人など意識することなく、その人らしく生きられる社会
資源が循環し、人と自然が支え合う社会
多様性
障害のあるなしに関わらず、人格や個性を尊重し合い、多様性を認め合う社会
差別のない生活
・あらゆる場面において、マイノリティである立場の者に対する誤解や偏見が無くなること ・全ての人がお互いの人格と個性を尊重し合いながら、共にいきいきと暮らすこと ・誰もが心穏やかに日々を過ごすこと
男女共生、ジェンダーレス、生物多様性
多様な人がともに手を取り合って生きていくイメージ
状況の異なる様々な人が共に理解し、互いに尊重できる社会。(理想的かもしれないが、実現困難な社会)
自由 平等 平和
お互いが協力して生活をしていく社会
・いろいろなバリアを取り除き、お互いを尊重し、誰もが快適な生活が営める社会 ・ACジャパン広告のようなイメージ
誰もも平等な社会 (平等というのは、単に同じ扱いではなく、例えば障害者に対する配慮があるなど、平等と感ずることができる環境)
多様な人々が、それぞれにハッピーに暮らす社会 多様性を認め合える大らかな社会
この世に存在している全ての人たちが支え合い、助け合って生きている社会
差別がない社会(人々が人権や差別によく認識し、目立つ差別行為のみならず、アンコンシャスバイアスやマイクロアグレッションをなくすことにまで意識が向いている状態。)
違いの尊重



Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

障害者も健常者もともに尊重しあう社会
人によって基準が違うので曖昧な印象
輪、円
そもそも何が共生社会か分からないというイメージ
どんな立場の人でも、どんな状態の人でも、ともに協力し生活して行ける社会
高齢者、障害者、SGBTQなどを社会的に包摂し、誰もが生きやすい社会を構築すること。言葉では、ソーシャルインクルージョン、ダイバーシティなどを思い起こします。
これまで弾圧されてきた少数派への救済。
男女平等
男女多様性多様性
性別を超えた役割の分担
自然と環境と人間活動の調和
どんな人でも暮らせる社会
理想
平等
ダイバーシティ
平等や人権の尊重
様々な異なる分野が協力し合うこと
現代社会において、社会的弱者に対する偏見や固定観念、あるいは、先入観による差別的な扱いはありふれていると感じます。それらを完全に払拭することは難しいですが、「共生社会」という言葉だけが先走りせず、社会全体として、あらゆるマイノリティと、その周囲に孕んでいる課題に理解を示していく必要があると思います。
民間時代の海外からの出稼ぎ(公共工事におけるベトナム人労者)

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

様々な特徴をもった人々が、お互いに違うところを認め合い生活できる社会
差別のない社会。自由と規律のとれた社会。公平な社会。偏見のない社会。
LGBT
ジェンダー平等が進み、多様な性(LGBT)や障害への理解・配慮がなされ、国籍や文化的背景に左右されずに暮らせる社会。
平等
地域住民が地域の多様な主体が、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく社会
ジェンダーフリー
互いに無理のない範囲で協力しながら、共に成り立たせていく社会。
自然
すべての人にとって自分らしく幸せに生きる権利が保障されている社会
地方
お互いの育ってきた環境や文化の違いを認め合い、お互いを尊重しあえる社会。
互いの価値観や考えを尊重し、生活していく社会
社会保障を支える「自助・共助・互助」のうち、「共助」
あらゆる人が、その人らしく、いきいきと活躍する社会
大人・子ども・高齢者・障害者等が関わり合いながら支え合う社会。
全ての世代の方々が、お互いを理解し合って助け合いながら生活していける社会
性別、年齢、立場、障害の有無、国籍などを越えて、互いの違いを認め受け入れ、活かし合うことの出来る社会。
様々な人がそれぞれ他人(個性)を尊重し合っている社会

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

男女はもちろん、身障者とも協力して、それぞれが住みよい社会となっていること。
お互いのことを理解し、尊重し合う社会。
性別、障害、国籍等の違いを相互に認め、尊重し、共に生きる社会
・自分の短所(できないこと)を誰かに手助けしてもらい、自分の長所を社会に提供して、誰かを手助けする。
多様な背景(人種、思想、経歴など)をもつ人たちが共に暮らしていける社会。
多文化
誰一人取り残さない
全ての属性の人が関わり合って形成されている社会
それぞれを尊重し、認め合う社会
性別・LGBT、さらには宗教や思想信条の違いを含めた多様性を認める社会であること。
差別のない社会
障害、国籍、性別、宗教などあらゆる人が共に生活する社会をイメージしています。
老若男女、障害の有無、国籍の違い等様々な人々が共に理解し合い、支え合う社会
多様性を受け入れる社会
すべての人や自然などが互いの特性を理解し、適材適所に配置され、互いに役割をもちながら社会を維持していくこと。
共に生きる 男女共生
外国人との関わりが第一にイメージされる。
他者への寛容
障害者、LGBTQ、動物、ウィルス、地球

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

共に支え合い生活していくこと
多様性を尊重する。
障害の有無、性別、国籍・文化などの様々な違いによって、暮らしやすさ、学びやすさ、働きやすさが制限されることのない環境が実現している社会
全ての人の社会参加
他者に対する思いやり・やさしさ
ともに所を同じくして生活することから「平等」というイメージ。
お互いに尊重し合って生きていく社会
差別や偏見がなく、誰にでも社会参加の機会が与えられる世の中であること
誰一人とりのこさない社会
年齢層や立場などが様々なこと
ユニバーサルデザイン 男女平等 多様性
男女共生、障害者との共生社会
障害の有無、国籍にかかわらず 互いに尊重する社会 多様な価値観を認めあう社会
非競争社会
共に生きること
誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会
支えあいの社会
懐の深い社会、LGBT、在日外国人
多様なものが同じ空間に存在し助け合いながら暮らしている社会

Q1. あなたが「共生社会」と聞いて何をイメージするか教えてください。

だれもが、自分の考え、思いを言える社会
性別や年齢、障害、国籍等にかかわらず、全て人が互いに支え合う、人にやさしい社会
隔離等の分断をしない。社会生活困難者(各種障害、家庭環境、社会環境による)に対する社会資源の確保確保。
年寄りや障害者などハンデキャップをもった方とそうでない方が、共に生きやすい社会をイメージする。
機会均等
人種・性別など偏見や差別のない社会
障害者の方も含めて豊かな生活を送れる社会
全ての人が尊重され、互いに思いやり、認め合う社会
いわゆるボーダレス。老若男女+外国人、目的は違っても互いに尊重をしながら生活できる社会。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

寛容さと節度、謙虚さ
幼少期より教育の一環としてプログラム教育を取り入れる
相手のことを考え、異なる意見であっても理解に努め、双方にとってベターな着地点を探す努力（庁内もそうあって欲しい）
教育
社会の寛容性
特区を導入しての選択制夫婦別姓制度の導入は面白いと思います。
相互理解
・共生社会実現に向けた教育（講習） ・弊害となる事柄やハラスメントなどの意識学習 など
普通=多数派という考え方を変えること
地域住民全員に、地域コミュニティーに参加することが、自分たちに多かれ少なかれ何らかのメリットがあることを理解させること。
差別をなくす
差別や偏見は決してなくならない。日本の伝統や考え方の維持も含めて考えて欲しい。
自分の常識は良識でないことを自覚する
マイノリティが勇気をもって自分の考えや行動を表出できる環境
認識、思い込み、特権意識などの解消と社会の許容体制の構築
他人の属性が自分の気に入らないものであったとしても、その人を認めて仲間はずれにしないこと。
相手を理解し、受け入れていく。その上で、ある程度の合意形成のもとに様々なことを進める。
障害者の大変さを感じる
欧州小都市にもみられる皆が集まれる広場や、国内各地にもある伝統的な住民参加の祭りの場などを通じた交流の機会の創造、拡大、展開。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

他人との距離のとりかたを身につける（自分がされていやなことは他人にしない）
個々人のマインドセット
受け入れ体制の整備 ※現状は所属任せ
各インフラのバリアフリー化
性別、年齢、障害など、さまざまな人々の違いを自然に受け入れること
理解、尊重、協調
徒に権利を主張しない
諸外国に比べて、家事や介護や育児等について、男性より女性に負担が重くのしかかっている現状があり、女性の社会進出を阻んでいる大きな要因となっているため、国民の意識改革や教育、家事や育児、介護の社会的な負担軽減策が必要だと考える。
マイノリティを体感し、人は皆違う、異なるということを受け入れる
人の良心に頼るだけでなく、ルールや仕組み作りをすること。
全ての人が平等だということを改めて認識すること。
教育
多様性をよく理解すること。
平等・人口対策などにおいて、女性、男性、子育て世代、高齢者、外国人など、各対象に向けた各種施策が検討されるが、根本的に「誰もが暮らしやすい」ことをまずは目指すことが、結果的に各対象となる者皆が暮らしやすくなるのではと思う。根本を変えずに誰かを良くしようとすると、反面で誰かに無理が生じているのが、現在の状況ではないかと感じる。上辺だけではない根本での共生社会になればよいと期待します。
昨今の働き方改革やコロナ禍での様々な対応、県庁の業務削減もそうだが、形式的なものではなく、人権意識という血がきちんと通った政策・実務を、少しずつ確実に積み重ね（山梨というもすれば閉鎖的と呼ばれがちな社会に浸透させつつ、旧世代の発言力が落ちるのを待つ）ていくこと。
固定観念を払拭し、柔軟な発想で相手を受け入れること。
雇用機会均等
山梨が福祉に強い県になることです。意識から変わる必要があると思います。建設にばかりにお金を使うのではなく、福祉にお金をもっと使うべきだと思います。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

違いを理解し合うとともに、多数派が少数派に歩み寄ること
相互理解
差別をなくすこと。全ての人間は皆同じ。
学校等における子どもたちへの教育(共生社会に関する事項)
差別をなくす
その人を尊重する
わからない
特定のテーマでグルーピングし、その集団の価値を尊重していく活動は一見正しいように見えるものの、グループ化するという行為は制限がなく、政策として取り組むにはキリがないと思えます。究極には個々の尊重に行き着き、公共の福祉と対立しない限りにおいて、一人一人が生きづらさを感じないような包括的な取り組みも両立させていくべきではないでしょうか。
障害者や高齢者がバスや電車など乗り物に乗り降りする場合、運転手さんが安全な乗り降りを手助けする。これによって、本来、日中に利用する障害者や高齢者が利用するようになり、バスや電車の収益に繋がる。
生活に余裕ができること
責任も重視、強調すべきと考える。
差別を無くすように個人が意識すること
文化交流(生活文化などを知る)
認め合う
一人一人が自分と違う他人を認め合う気持ちを持ち続けること
幼少期からの教育及び個々を尊重し共に生きていく社会の実現が大事 現状はまだ隔離が平然と存在しているなかで、共生社会にはまだまだ大きな社会的資源及び考え方等に「壁」がある。
理想と現実の乖離を共通認識で整理できるかが重要
お互いを理解する心

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

役所の制度を見直し、共生社会に必要な制度を整えることが必要。 障害の子どもがいる家庭で、本人が頑張って社会参加しようとしているにもかかわらず、制度的な理由で町民の相談を断ったり、その課の所属長が頑なに例外を作らないといった、共生社会の妨げになる行動が見られるため。
差別、偏見の根絶。違うことに対する理解や知っていただくとする風潮。
どんな形でもいいのでみんなが繋がる仕組みづくり
相手の価値観へ踏み込まない謙虚な姿勢
お互いの違いを受け入れること。
教育
ICT技術の活用
平等ではなく公正な世の中
共生社会のデメリットについての検討。
助け合い、認め合い、それが当たり前という感覚を人々の心に根付かせる。
具体例を出して、伝えていくこと
様々な立場の方が何を必要としているのか理解しようとする
固定観念を捨てて、新しいものを受け入れる心
多様性を知り、過干渉しないこと
自分は世間一般と同じだと思い込んでしまっていますが、様々な人がいることになかなか考えが至らないことが多いです。様々な人がいることをもっと知るべきだと思います。
障害者の立場にあった考え方
時には無関心、時には尊重
学校教育現場での共生社会に関する普及・啓発
人々の根底にある自らが生まれ育った場所の文化等がスタンダードだという意識の改革(きわめて困難)

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

差別の解消
意識の変化 思い込み除去
各々の分野が一つの目標・実現に向けて進むこと
お互いを思う気持ち
バリアフリーやユニバーサルデザインに対して、公的な機関が積極的に取り組むこと。
まずは全ての人が「共生」ということについて共通理解を図ることだと思います。
自分の考えを絶対視せず、自分とは異なる考えや立場の意見を大切にし、よりよい考えを生み出していくこと。
誰かの言動に合理性がないと感じるとき、その言動をした人はその言動が共生社会の実現のために必要だと思ってとった行動ということがあると思うので、その言動をした相手に対して「なぜそのような無駄なことをしているのか」と責めないこと。
差別をしない考え方
ひとりひとりが思いやりの心を持つこと
国民の意識改革
相互理解と寛容な社会の実現
知らず知らずのうちに持っている無意識の固定観念や偏見をなくすために、様々な考え方に触れる機会を設けること。
相手を知ること
あらゆるパワハラ、差別を許さない姿勢
一人一人の価値観を変える。(質問1の考え方が当たり前という価値観)
『多様性に関する一人一人の理解』 それら理解から自然発生的に「共生社会」が少しずつ実現に向い、その課程で行政が手助けし、良い方向へと導いて行くことが必要であると考えます。 よって、県としてはまず、共生社会に関する多くの情報を県民に発信して、県民に考え・理解してもらうことが最優先であると考えます。
寛容なスタンスで、他者の思考を自分のフレームに寄せるような言動はしないこと

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

増税
思いやり
無自覚ハラスメントの無い世界。
どんな意見にも耳を傾け、共生を押しつけないこと。
相手のことを理解しようとする努力
社会的弱者と言われる人たちを支援していくこと
お互いを思いやる気持ち
あらゆる差別の撤廃
マイノリティばかり尊重しすぎでは差別を助長する。
自己責任を前提とした上での相互扶助
各人が個人として尊重されるよう意識づける教育が必要だと思うが、個人主義一辺倒では社会は成り立たないので支え合うことも大切であることを伝えていく
障害等によって差別があったり、介護等で格差があったりしないよう福祉サービスが質的・量的に充実すること。また、それに従事する人々の待遇改善が図られること。
人間一人一人が、他者に共感する力を持つと同時に、共感できない他者に対しては、攻撃ではなく放置する力を持つこと。
お互いの理解
多様な価値観について正しい知識を得ること
意識変革
「こうあるべきだ」とか「〇〇はこういうもの」という先入観を無くすこと
ゆとりのある生活
多様な文化や価値観を受け入れる

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

県民全員が同じ目線で向き合うこと
1人1人の理解や協力
賃金格差の改善
幼少期からの教育
経済格差
安心感のある居場所作り
経済的格差の是正。
相手の価値観を否定しないこと
思いやり・相互理解
差別がない
創造力
自分の価値観を他人に押しつけないこと
他人は自分と違うことを理解・尊重すること
偏見をなくすこと まず自分を大切にし、相手を思いやること
対話
それぞれの人生を同等に尊重すること
共生については、いろんな言葉や事業があって、意識自体はだいぶ浸透されていると思いますが、いざ、何をすれば、またどうなれば実現した、といえるのか、よくわかりません。ただ、何となく、少数と言われてしまう方が生きやすくなる、ということであれば、お互い、本音を出し合える環境があれば良いのかなと思います。
お互いの理解。マイノリティに限らず、それぞれの立場を理解し合える環境づくり
日本人の差別意識がそこに向かないようにすること、

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

ほどよい距離感と理解しようとする心。
体の仕組みの違いと体力の違いを考慮し合い協力する。
相手を尊重し、相手の状況を考えて行動すること。
性別人種身体知能などでの差別を撤廃すること。行政が主体となるだけでなく、各個人の意識を改めていくことが必要。
違いを認めること。
自然、生き物、すべての存在に対する思いやり
多様であることを認識し、受け入れること
共生社会の実現は国や県からの押しつけではなく、子どもから高齢者までのひとり一人が自分ごととして「共生社会」を実現する推進役であることを認識し行動すること
相手の立場や考え方を理解し配慮、尊重すること
他を否定しない
共に認め合うこと。多様性を尊重しつつも共通の目標を持つこと。
世代間の格差
互いを尊重する精神
ものごとを偏見や勝手な先入観で人ごとだと思っ一面だけで物事を判断しないよう意識すること
多様性を受け入れる気持ちと場合によっては、多様性のために一部我慢もいとわれないと思える気持ちが必要だと感じるが、実践できるかは別問題。
他者への配慮(意識向上)
格差の是正
差別をなくす
世の中に未だにはびこる旧来からの差別・編県・謂われのない噂などをなくすこと。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

自分やひとつの価値観のみを周囲や他の者に強要しない
「共生」という言葉は、普段生活をしていても意識することが少ない言葉だと思います。ニュースやテレビ等、身近にはないところでごくまれに使われている言葉というイメージが強いです。そのため、概念としては立派なものであるということはわかるのですが、「共生の実現」といわれども、自身の生活とどう関わってくるのか、身近なものとして親しみがわくよう、イメージを想起させるものが必要だと思います。でなければ、「共生」の実現と言われても、人ごとのように感じおわってしまうのではないかなと思います。
相互理解
上記が大切と思うので一つと言われると難しいと思う
「寛容性」だと思う。自分と異なるものを排除しようとしたり、逆に同情したりするのではなく、他者の意見・生き方を知り、寛容に受け入れることが必要。
教育
オトナの意識改革
個性への理解を深めること
他者の存在を受入れ、適切な距離感を持って接すること
他の価値観を認める
セクシャルマイノリティーの理解
まず、共生社会実現のためには、物理的・心理的なハザードを取り除く必要がある。物理的ハザードとは、バリアフリーなどのインフラにおける配慮などが該当する。心理的ハザードとは、偏見や、差別などがそうである。このことにより、これまでハンディキャップと捉えられていた部分を個性や特性と捉え、その良さを発揮し合い、新たな創造性や、パフォーマンスを引き出すことが重要である。
意識改革
温暖化阻止 戦争撲滅
ICTの推進
他人のことを否定しない(自分が是とすることだけがすべてだと思わない)

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

障害者への理解とどのようなことが出来るか広報すること
日本人が外国人に対する苦手意識をなくすこと
お互いに理解しあうこと
インクルーシブ教育
まずは、各の日常抱えている考え方や偏見を払拭することが必要と考えられるので、お互いの環境を知る機会を設けて単に話を聞くだけでは無く、現場主義の意識で現場を実際に見て本人自身が感じる事が重要と思います。
県民ひとりひとりの意識改革
行政言語は封印して、地域の魅力を知る、多様な人たちと交流できる、気軽に参加できる機会を可能な限り多く創出すること(コミュニケーション能力の向上)
個々人の意識の変革。そのための公教育や成人への啓発が重要。
生活環境・労働環境における格差や扱いの差をなくし、制度だけでなく、そのコミュニティに属する人の意識改革も必要だと思います。
まずは自分が幸せを感じる事
発想の転換
意識改革
女性管理職の拡大
一人ひとりの意識改革、あるべき姿の共有
能力、損得、地位等と関係なく他者の尊厳を尊重することが社会に浸透すること
他と違う事が否定されない、否定しない事
自然にあるがままを受け入れること。
いろいろな人(障害のある方、外国籍の方、LGBTの方等々)と関わり合うこと
県民一人ひとりの金銭的、時間的余裕。こころのゆとり。



Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

相手を思いやる心
生きづらさを感じる人の何が生きづらいかを理解し周知すること
共生社会といういかにも役所が掲げる堅い用語が、壁の一つになっているのではないかと思う。子供や外国人でも理解できる、やさしい日本語のような言葉に転換していくこともひとつのきっかけになるのではないか。 また、本当に共生社会の意義を理解し、その実現を目指すならば、逆に差別や対立の歴史を直視してもらうことがまず必要で、その過程でなぜ必要なことなのか、正しく浸透していくのではないか。
例えば障がいにしても何となく分かっているつもりでいるが、実はこんな症状などがあるというような新しい発見ができるとその対応について理解が深まり、共生社会の実現に近づけるのではないか
共生社会への県民の意識改革
自分がある世界や考えが「せかい」だと思わないこと
行政・当事者・支援団体が情報を容易に発信でき、それらの情報を地域住民が気軽にアクセスできるような基盤づくり。
相互理解
みんなそれぞれ違うことをあたりまえに思うこと
支え合うこと(支えられるだけでは新の共生社会ではない)
自己理解と他者理解
健常者が気を遣わず、障害者が気に病まない意識の構築
年齢を重ねると固定概念を脱却できない感がある。その層に向けた地道な周知活動(講演等)が必要かと思います。
差別が悪いことだと、みんなが口に出して言える社会にすること
偏見等を無くし、誰もが支え合う気持ちを持つこと
心の余裕
人間お互い同士がすべての多様性を認め合う社会

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

年代別の意識改革・意識の醸成
他人を認めること
自分の中に自然発生的に出てきてしまう偏見に気づき、その考え方を修正すること。
すみません。課題はたくさんあると思うので、その中から一つだけを選ぶことができません。
差別的、暴力的シーンの多いテレビ番組や動画配信の禁止
生きづらさをかかえている人が相談しやすい環境をつくり、支援していく
相手を受け入れ尊重する。
共通する「具体的な目標」を設定し、それを共有し、皆がそれに取り組むこと。
互いを受け入れ、認め合うこと
統一的なルール
小学生からの意識付け教育
相手を思いやる気持ち
一人ひとりの意識の向上
寛容の心の形成
機会の平等
温暖化防止、環境保護
共生社会への具体的理解
自分の価値観で判断しない
障害者と健常者がふれ合い、ともに活動する場を広げていくこと

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

多国籍所有を容認する
職場や地域において、それと気づかず(?)ヘイト発言をしている人もおり、こういった大人を矯正することは相当困難。幼いうちから共生社会の重要性について教育に取り込むことが必要だと思う(障害を持つ人の場合、自己肯定感を高めるのに特別支援教育は重要。単純にインクルーシブ教育を進めるといのは少し違う気がする)。
男女問わない意識改革、弱者の立場を思いやれる気づき、意識醸成
過剰な競争の抑制
受け入れが許容できるように小さいころからの教育であり、また、外から入ってくる人に対しても地域社会が壊れないように教育が必要。
尊重
むこうさんげんりょうとなり
人権(自分も相手も)の尊重
一人一人の意識を、「認識」から「常識」に転換すること。 (こういうことは必要だね。ではなく、当たり前)の社会に向けて、一人一人の社会的責任として浸透させることが必要だと思う)
自分と異なる文化や考えなどを受け入れることができるマインド
一人ひとりが他者に対して偏見や差別を持たないこと
特にマジョリティの側が、人権と差別・抑圧について学び、理解すること。
教育現場における推進
心のバリアフリー
お互いの尊重
ネットワーク
県民の意識改革が必要となるため、早期の成果を求めない、超長期の計画と取り組み
相手の状態や状況を理解して、行動すること。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

県民の理解を深めることが重要。 目指すところ、対象者、内容、そのための方策などを長期的スパンで県民や企業に周知し浸透させることで、県内各地で県民自ら団体などを立ち上げるようにするとともに、企業での採用を促進する。 行政は、団体同士のネットワークの構築や、企業の取り組みの好事例の紹介や表彰を実施する。
少数派への救済を進めるとともに、既存の価値観も多様な価値観の内の一つであると認め、安易に排斥しないこと。
男女の雇用機会均等
多様な人々に対する理解
子育てや介護といった個人の問題に対する職場の理解
人間が、自然や環境を保全すること。具体的には、経済や産業ばかりでなく、地球環境や将来のために、もっと自然に目を向けるべきだと思う。
外国人は異国のの人とのコミュニケーションに不便を感じているので、多言語翻訳機の導入が必要だと思います。
小さいころからの意識づけ、教育(押し付けてしまうと本末転倒なのでそのような考え方もあるといううな?)
協力
おもしろい持てる人間形成
正確な情報と個々人の偏見の排除
相手を理解しようとする
社会的弱者だけでなく、その周囲でサポートにあたる人材や、共に生活を送っている家族等の意見にも耳を傾ける必要があると思います。たとえば、社会的弱者とされていおる障害者を例に挙げるとすれば、その家族(親だけでなくきょうだい児)も含めて検討すべきです。障害者に対しては、排除的な差別、冷酷な扱いは未だに健在しており、これらは本人だけでなく、家族にも被害をもたらす、また、精神的苦痛を伴うものと考えます。きょうだい児の問題に関しては、幼少期から馴染みのある家庭環境に違和感を覚えにくく、困難を強いられることに気付かないケース、それらを他人に相談しにくいといった課題などがあり、これらが解決にいたらない要因の一つには、当事者ではない人々の関心が希薄で、社会全体として理解が進んでいないことが挙げられると思います。「共生社会」とは決して、社会的弱者のみを擁護するものではなく、このような問題の解決に向けて留意すべきだと感じます。
お互いを認め合うこと
県民意識の向上。
個人個人が関心を持つこと。(そのために小・中学校などで小さい頃から関心を持てるよう授業や諸活動で考える機会をつくる)

Q2. 「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

社会の中で「生きづらさ」を感じている人に寄り添い、その「生きづらさ」を感じさせているものを取り除いていくこと。
ひとりひとりの理解
従来型の社会保障だけでは対応できないので、これまでの制度、分野の壁を越えていくことが必要 ①縦割りという関係をこえる ②世代や分野を超える ③「支え手」「受け手」という関係をこえる など
学習
バリアフリー、ユニバーサルデザインなど
地球温暖化対策
思いやりの心を育む教育、区別はしても差別は許さない社会システムの構築
物心両面の豊かさ
個々に違いがあって当然であるという教育。
自身の価値観や考えを、他者に押しつけないこと。
縦割りではなく横のつながりを重視した行政運営をしていくこと
人と違っていい、それが当然、という多様性を尊重し、その中でその人らしさで社会に貢献できる環境を整えること
保育と介護等の一体化。意識改革。軽微事故、軽微ミス、ヒューマンエラー等への理解。
ハンディキャップやマイノリティーな考え方について、理解を促進するため啓発活動
人はそれぞれ違うから、違うまま受け入れようね。という意識啓発。CMなどで県民にしつこく意識を植え付けること。
固定概念の排除
弱者への優先した配慮や支援
お互いに理解するという意識、理解する機会(情報)。

Q2. 「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

他者を思いやる心
固定概念にとらわれることなく、寛容な気持ちを持つこと。
不自由さを受け入れること。自分の思想とは相容れない存在がいることによる不自由さは必ず発生するが、それを受け入れること。
他者の属性に対して寛容であること。
社会的弱者(特に障害者、外国人、生活困窮者)が暮らしやすくすること
差別をしないこと。区別は必要だと思う
多様な意見・生き方を排除せず認める
法や制度上の差別的規定を無くすこと。
差別・不必要な区別をなくす。 例えば、障害者雇用の場合は、健常者の雇用に比べて給料が低かったり、昇格が遅かったりするの、そういう差別をなくす。また障害者でも雇用されている場合は、障害者割引等の特典をなくす(健常者と同等の扱いにする。)
当事者が施策・事業の構想・画から関わり、当事者の必要とするサポートを実施することが重要。知識のない議員や、職員が必要だろうと思うことを提案してしまうと、実態と即していないサポートになりかねない。ニーズを把握することが必要だと思う。
実効性ある法整備
日本社会全体の絶対的な安定が必要です。
人的、資源的、時間的ゆとりを持つことができる社会を構築することが大切だと考えます。
高齢者の共生社会に対する意識改革
受け入れる側の度量と、飛び込む側の度胸。win-winの考え。
富の再配分
寛容
お互いを理解していくこと。

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

多様性を認めることの必要な制度には、その意識を持つ文言を入れる。
様々な違いはあって当たり前という理解(多様性の認識・理解)を浸透させること
各地域に人手不足のため活用されていない活性化施設が見受けられるため、そこを活用できる仕組みや人の手配が必要かと思う。
違いを受け入れること。
様々な方の現在の状況を知ること。
1つの事象をすべての人に受け入れてもらうことは不可能であるため、受け入れられない方は無理に動かすのではなく、可能な限り受け入れてもらうようにプレゼンをしっかりすること。
障害者、外国人などの言葉で一括りにせず、一人ひとりの考えや生まれ育った環境等を理解し、認め合うこと。(相互理解)
アンコンシャスバイアスの解消
立場関係なく平等であること 思いやりある行動
固定概念を取り払い、周囲の風潮に流されず柔軟に構えること。
健常者が障害者や高齢者のような「立場の弱い人を立場の強い人が助けてあげてんだ」、という上から目線な考え方を日本人が止めることだと思います。
世の中、格差社会であり、共生する前に格差を縮める必要がある。また、なぜ多様性を認め合う必要があるのかについて人々の理解が必要。
この世の中にある物のほとんどが健常者のような有利な人中心にできていて、スーパーや市役所、銀行など、健常者にしか使えない内装や設備になってることが多い。障害者や高齢者、子供、妊婦には使いづらい。すべての物をユニバーサルにし、誰でも使えるよう環境を整えることが必要だと思います。
社会にあるバリア・隔たりを取り除くこと
能力至上主義を改める
互いを尊重すること
環境面・心理面における隔たり(障害・偏見・先入観等)をなくす。
意識改革

Q2.「共生社会」の実現に向けて必要だと思うことを一つ教えてください。

正しい情報
正しい知識をつけ、何かあった場合にそれが正当である理由をすぐに想像し、いきなりの拒絶や敵意を持たないようにする
差別意識の解消
それぞれの人が再認識することや実現に向けた環境の整備
社会資源の継続的かつ内容を伴う公的投資。
人々の意識改革、制度やインフラなどハードの整備
相手の置かれた状況を理解したり、相手の立場になって考える力が必要だが、そのためには、現代の人に求められる「傾聴」する能力が必要。
機会均等
一人一人の価値観、多様性を認め合うこと
県民ファーストの基本理念に基づき実行すること
1人1人のヒューマンとして目の前の人を見ること
守る伝統と捨てる常識があればと思います。

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

おもいやり育成教育
自分の常識は他人の非常識
寛容
多様性
他者の尊重
「未来へ共に生きる」
多数派が少数派に近づく
地域共生推進グループ(リーダー)
リスペクト
逆差別の防止
自分がされていやなことを人に対して行わない
多様性の尊重
十人十色
多様性の受容
社会全体で取り組むこと。
他人への思いやり
交流
一対一(その他大勢の集団でなくひとりひとり)
理解
全員参加 共生社会
絆
認め合い

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

寛容
ダイバーシティ
マイノリティ
平等
多様性
多様性
「誰もが」相互を大切に暮らしやすい社会。
人権感覚
相互理解
女性の積極的登用
意識から変わる山梨
共生社会の担い手を育てる
寛容
人類皆兄弟
思いやり
尊重
助け合う
共生
よくも悪くもムラ社会な山梨の空気感を変える
どこへでも
自分が相手の立場だったら、「どうする自分!？」
責任

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

個人の意識
共通理解
対等な関係
お互いに共に生きる壁を理解し、その克服に向けて努力する。
理想と現実
個性の尊重
一歩前進
みんな違ってみんないい
ほどよい距離感のあるおせっかい
not for me
敬意
教育
公正な社会
協調性
共助、協力
平等
お互い様
尊重
尊重しあい、ゆるくつながる
他者を知る
愛と平和
バリアフリー

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

意識改革
やさしさ
寛容
各分野等との連携
助け合い
全員参加
他人事を我がことと考えられること
共通理解
対話 多様性 受容と発信
寛容
円
思いやり
国民の意識改革
イノベーション(変革)
尊重
生きづらくない社会
理解と尊重
知る・考える・理解する機会
教育
思いやり
対等
相互理解

Q3.「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

全ての県民の幸せ
思いやり
十人十色
個が認められること
グローバルスタンダード
お互いさま
一人ひとりの違いを尊重
意識改革
助け合い
平等
共に生きる
富の再分配
活躍の場作り
寛容
対話相手を認めること
違う価値観を認め合う。
幼少期からの教育
話を聞く
相互理解
対話
尊重(他人の人生、自分の人生を軽んじないということ)
尊重

Q3.「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

寛容
無尽文化の山梨県では受け入れられそうもない社会
普遍
赤ちゃんは女性にしか生むことが出来ない。
当たり前の社会
手を取り合い、ともに生きていくこと。
互いが尊重する
違いを認める気持ち
すべての存在に対する思いやり
啓発
既存の概念を超えていく
相互理解
寛容
共通目標
ノーマライゼーション
尊重
共存
ありとあらゆる多様性の尊重
寛容さ
格差是正
思いやり
「ALL for ONE、ONE for ALL ~みんなはひとりのために、ひとはみんなのために~」

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

もっと身近に感じたい(感じるべき)もの
寛容
個性の尊重
尊重
理解
他の尊重
尊重
思いやり
有り体ですが「ダイバーシティの推進」だと思います。
違いを認め合おう
実践教育
相互理解
社会は関係性の積み重なりだが、良い意味で他人に無関心であれ
寄り添い合って生きる
日本語教育
融和
多様性
お互いの理解と協調する意識
共感力
未来のためにすべて自分ごとにしよう
異なる人格である他者への敬意と寛容な心
受容力

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

「知る」
地球
意識改革
業務効率の向上
イーブン
受け入れようとする姿勢
ダイバーシティー
自他尊重
ボランティア
思いやり
理解すること
十人十色
知っているつもりから知っている社会を作り、互いを理解すること
新たな山梨(やさしさ、まごころ、なかま、しあわせ)
違いを知る
地域住民の理解
相互理解
みんながみんなを尊重する社会
支え合い
全ての人の命が輝く
平らな意識
認める



Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

寛容さ
協調
思いやり
男女共生
恕(思いやりの心)
リスペクト
平等
すみません。一つも浮かんできません。
おもいやり
個人の尊重
目標の共有
相互理解
思いやり
ハートフル社会
相互理解
理解と尊重
教育
多様性への理解
サステイナブル
笑顔
相互理解
福祉分野への積極的なICTの活用

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

it`s a small world
平和な暮らし
女性活躍
地域社会を壊さず、お互いに理解できる教育環境
協力
肩の力を抜いて楽に生きる
社会的責任
違いを楽しむ
協力
個人の尊厳
相手を思いやる心
アンコンシャスバイアス
協力
声をあげること、それをくみ取ってあげられること。
「繋ぐ」(全ての人を包摂するという意味)
多様な価値観
ジェンダーレス
自分とは違う価値観の人も認める。
性別年齢を超えた相互理解
多様性に富んだ自然と人間活動の調和
コミュニケーション
団結

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

地域活動の強化
他者の理解
違いを認める
みんな違ってみんないい。
みんなで共に生きる。
包摂(インクルージョン)
人と人(地域・社会)とのつながり
知る事
相互理解
環境汚染の実態
「おもしろい」
結い(ゆい)
相互理解
寛容
身近な人の幸せを願うこと
個性の尊重
デジタルではない人と人のふれあう時間の確保
ウェルビーイング
尊重
他者の尊重
助け合い
相互理解

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

相互理解の促進
柔
許容。
包摂性
和
相互尊重
多様性
無差別
共生という言葉自体が、違いを意識づけている。「誰もが住みやすい社会」はいかがですか。
相互理解
ゆとり
共に生きる
同質からの脱却。
インクルーシブ
「仲間」
どんな場面でも共生社会の意識をさせる。
「違っていいしょ」が当たり前
ヒューマンバリアフリー
認識
浸透
相互理解
インクルーシブ

Q3. 「共生社会」の推進に向けたキーワードを一つ教えてください。

価値観の違いを認める
多様性の尊重
対等
最低限の生活の保障
ユニバーサル
他者理解
寛容
人間尊重
思いやり
新しい価値観
おびえない
認め合う
意識改革
共に生きる
機会均等
多様性
One for All, All for One
自分が変わると世界が変わる
いつでもどこでもだれとでも